

## 立田 ルミ 先生 略歴

1946（昭和21）年 長野県に生まれ、大阪府で育つ

### 学 歴

1965(昭和40)年3月 大阪府立豊中高等学校卒業  
1969(昭和44)年3月 津田塾大学学芸学部数学科卒業  
1972(昭和47)年3月 津田塾大学理学研究科修了  
1972(昭和47)年6月 修士（理学）（津田塾大学）

### 職 歴

1969(昭和44)年4月 獨協大学電子計算機室教務職員（副手）（1970年3月まで）  
1970(昭和45)年4月 獨協大学経済学部経営学科助手（1974年3月まで）  
1972(昭和47)年11月 獨協大学計算センター所員兼任（1981年4月まで）  
1974(昭和49)年4月 獨協大学経済学部経営学科専任講師（1980年3月まで）  
1980(昭和55)年4月 獨協大学経済学部経営学科助教授（1988年3月まで）  
1984(昭和59)年4月 武蔵大学経済学部非常勤講師（1990年3月まで）  
1986(昭和61)年4月 日本情報処理開発協会調査委員（1990年3月まで）  
1988(昭和63)年4月 獨協大学経済学部経営学科教授（2017年3月まで）  
1989(平成元)年10月 国際ファジィ工学研究所調査研究員（1991年3月まで）  
1990(平成2)年2月 獨協大学大学院経済学研究科修士課程経済・経営情報専攻設置認可申請に際し、合教授の判定を受ける  
1990(平成2)年4月 獨協大学大学院経済学研究科修士課程経済・経営情報専攻教授兼担（2017年3月まで 現在も担当）  
1991(平成3)年4月 獨協大学情報センター研究員兼任（1992年3月まで）  
1991(平成3)年8月 武蔵大学経済学部金融学科設置認可申請に際し、プログラミング各論担当の兼任講師として「可」の判定を受ける  
1992(平成4)年4月 武蔵大学経済学部非常勤講師（1994年3月まで）  
1992(平成4)年7月 イリノイ大学 CERL 客員研究員（1992年9月まで）  
1993(平成5)年2月 大東文化大学大学院経済研究科経営専攻設置認可申請に際し、研究科博士後期課程情報処理論特殊講義担当の兼任講師として「可」の判定を受ける  
大東文化大学大学院経済学研究科非常勤講師（現在まで）  
1993(平成5)年4月 日本情報処理協会調査研究委員（1994年3月まで）  
1993(平成5)年4月 私立大学情報教育協会広報委員（2002年3月まで）  
1994(平成6)年4月 イリノイ大学 ETAG 客員教授（1995年9月まで）  
1996(平成8)年4月 獨協大学情報センター主任研究員（1998年3月まで）  
1996(平成8)年4月 放送教育開発センター研究員（1997年3月まで）  
1998(平成10)年4月 メディア教育開発センター研究員（2008年3月まで）  
2002(平成14)年4月 私立大学情報教育協会フォーラム委員（2008年3月まで）  
2005(平成17)年4月 獨協大学キャリアセンター所長（2009年3月まで）  
2008(平成20)年4月 私立大学情報教育協会IT化フォーラム委員（2016年3月まで）  
2008(平成20)年4月 メディア教育開発センター客員教授（2009年3月まで）  
2010(平成22)年4月 獨協大学経済学研究科委員長（2015年3月まで）

2011(平成23)年 4月 獨協大学情報学研究所所長兼任 (2015年 3月まで)

### 学会役員

1997(平成 9)年 4月 教育システム情報学会評議員 (2003年 3月まで)  
1997(平成 9)年 9月 C I E C 理事 (2011年 8月まで)  
1997(平成 9)年 9月 C I E C カンファレンス委員会副委員長 (2008年 8月まで)  
1997(平成 9)年10月 教育工学会研究委員会委員 (1999年 9月まで)  
1999(平成11)年 1月 教育システム情報学会論文編集委員 (1999年12月まで)  
2000(平成12)年 4月 情報処理学会教育とコンピュータ研究会運営委員 (2004年 3月まで)  
2004(平成16)年 4月 情報処理学会教育とコンピュータ研究会幹事 (2008年 3月まで)  
2005(平成17)年 4月 情報処理学会情報教育シンポジウムプログラム委員長 (2006年 3月まで)  
2006(平成18)年 4月 情報処理学会代表委員 (2010年 3月まで)  
2007(平成19)年 4月 情報処理学会特集号論文編集委員 (2014年 3月まで)  
2008(平成20)年 4月 情報処理学会一般情報教育委員会幹事 (2015年 3月まで)  
2008(平成20)年 9月 CIEC 研究委員会委員長 (2011年 8月まで)  
2011(平成23)年 9月 CIEC 研究委員会委員 (現在まで)  
2015(平成27)年 4月 情報処理学会一般情報教育委員会委員 (現在まで)  
2015(平成27)年 4月 情報処理学会教育とコンピュータ研究会委員 (現在まで)

### 社会活動

2004(平成16)年 4月 草加市小中学校通学区域審議会委員 (2011年 3月まで)  
2006(平成18)年 4月 草加市次世代育成支援対策地域協議会委員 (2016年 3月まで)  
2008(平成20)年 4月 草加市情報公開・個人情報保護審議会委員 (2016年 3月まで)

### 免許・資格

1969(昭和44)年 3月 中学校 1 級教員免許 (数学)  
1969(昭和44)年 3月 高等学校 2 級教員免許 (数学)  
1973(昭和48)年 3月 高等学校 1 級教員免許 (数学)

## 主要業績

### 著書

- 1) 『電子計算機演習 FORTRAN』、実教出版 (1970.4) (共著)
- 2) 『電子計算機演習 FORTRAN- 改訂版』、実教出版 (1975.4) (共著)
- 3) 『コンピュータ』、科学博物館、自然科学と博物館 (1979.9) (共著)
- 4) 『コンピュータ・プログラミング』、獨協大学同窓会出版 (1983.4) (共著)
- 5) 『FORTRAN77』、泉文堂 (1983.10)
- 6) 『FORTRAN77—改訂版』、泉文堂 (1985.9)
- 7) 『第 1 種情報処理技術者試験パターン別実践テスト』、税務経理協会 (1986.8) (共著)
- 8) 『はじめてのプログラミング』、有斐閣 (1988.9) (共著)
- 9) 『FORTRAN77—二訂版』、泉文堂 (1989.9)
- 10) 『情報処理技術者の適性』、有斐閣 (1990.4)
- 11) 『情報処理技術者の適性検査』、技研情報センター (1990.8) (共著)
- 12) 『情報処理の基礎』、朝倉書店 (1991.4) (共著)
- 13) 『FORTRAN77 二改訂版』、泉文堂 (1991.4)
- 14) 『ファジー研究戦略』、オーム社 (1991.6) (共著)
- 15) 『情報処理技術者試験第 1 種出題傾向と対策 4 年版』、税務経理協会 (1991.9) (共著)
- 16) 『Basic プログラミングの基礎』、朝倉書店 (1992.4)
- 17) 『情報処理技術者試験第 1 種出題傾向と対策 5 年版』、税務経理協会 (1992.8) (共著)
- 18) 『情報処理技術者試験第 1 種出題傾向と対策 6 年版』、税務経理協会 (1993.8) (共著)
- 19) 『CAI の現状と開発の問題点』、丸善 (1993.8) (共著)
- 20) 『はじめてのプログラミング』、有斐閣 (1988.10) (共著)
- 21) 『やさしいファジーシステムの話』、有斐閣 (1994.3) (共著)
- 22) 『情報処理技術者試験第 1 種出題傾向と対策 8 年版』、税務経理協会 (1996.2) (共著)
- 23) 『情報処理の基礎第 2 版』、朝倉書店 (1996.3) (共著)
- 24) 『Visual Basic と教育システム情報』、朝倉書店 (1997.4)
- 25) 『Word、Excel、インターネット演習』、朝倉書店 (1997.4) (共著)
- 26) 『大学の授業改善』、有斐閣選書、Pp.112-117 (1999.5) (共著)
- 27) 『コンピュータとネットワークによる情報活用』、2000 年 5 月、朝倉書店
- 28) 『高等教育と IT』、玉川大学出版部 (2003.10) (共著)
- 29) 『びとコンピュータハンドブック』、京電気大学出版 (200) (共著)
- 30) 『最新情報モラル』、日経 B P ソフト (2009.8) (共著)
- 31) 『e ラーニングからブレンディッドラーニングへ』、共立出版 (2009.9) (共著)
- 32) 『Visual Basic プログラミング』、創成社 (2010.5)
- 33) 『大学生の情報基礎』、日経 B P 社 (2011.4) (共著)
- 34) 『情報とコンピュータ』、オーム社 (2011.9) (共著)
- 35) 『最新情報モラル』、日経 B P 社 (2011.12) (共著)
- 36) 『大学生の情報基礎 (改定版)』、日経 B P 社 (2013.3) (共著)
- 37) 『「日経パソコン Edu」連携ワークブック』、日経 B P 社 (2013.3) (共著)
- 38) 『学生のための「情報基礎」』、日経 B P 社 (2014.3) (共著)
- 39) 『大学生の情報基礎 (第 3 版)』、日経 B P 社 (2015.3) (共著)
- 40) 『これからの大学の情報教育』、日経 B P ソフト社 (2016.3) (共著)

## 論文

- 1) “ 計算機による一般代数の処理言語 ”、Information, Control and Systems Winter Symposium 69, Vol.3, pp.187-201(1969.12)
- 2) “Remarks on the Carry and Overflow Indicator of the 1130 Computing System”, Dokkyo University Studies of Economics No.7, pp.51-61(1971.3)
- 3) “ 肺・循環器機能測定用 M.S. コンピュータシステム ”、医用マス研究会論文集、第 2 号、pp.53-58(1977.10) (共著)
- 4) “The Development of the Floppy Disk Data Entry System-Application to the Lung Function Test System”, RIDAI Technical Report on Management Science, Vol.1, pp.91-106(1977.11) (共著)
- 5) “Microcomputer Scanning for Respiratory Mass Spectrometer”, 質量分析、Vol.25, No.1, pp.67-82(1978.1) (共著)
- 6) “Application of a Twin Ion Source Mass Spectrometer Simultaneous Measurement of Respiratory and Blood Gases”, Advances in Mass Spectrometry, Vol.8, pp.1926-1933(1979.1) (共著)
- 7) “ 呼気分析用質量分析計・マイクロコンピュータ代謝測定システム ”、質量分析学会、第27回年会講演集、pp.69(1979.5) (共著)
- 8) “N<sub>2</sub>ガス洗い出しによる肺内ガス換気効率の測定 ”、質量分析学会、第27回年会講演集、pp.67-68(1979.5) (共著)
- 9) “Twin Ion Mass Spectrometer for Simultaneous Measurement of Respiratory and Blood Gases”, 質量分析、Vol.29, pp.178-190(1981.5) (共著)
- 10) “Development of Respiratory Mass Spectrometer and Computer System for the Study Lung and Circulatory System Function”, International Journal of Mass Spectrometry and Ion Physics, Vol.46, pp.167-170 (1982.6) (共著)
- 11) “ 呼吸・循環器・代謝整理の多角的測定 ”、医用マス研究会講演集、第 8 巻、pp.177-180(1983.10) (共著)
- 12) “ 呼吸分析質量分析計・コンピュータシステムによる呼吸・循環代謝の多次元測定 ”、医用マス研究会講演集、第 9 巻、pp.24-28(1983.10) (共著)
- 13) “Automatic Dyschromatopsia Test”, The Visual Computer, No.2, pp.97-101(1986.10) (共著)
- 14) “ プログラマ適性検査 (図形の特徴抽出能力) の自動化 ”、情報処理学会、第33回全国大会講演論文集、pp.2407-2408(1986.10) (共著)
- 15) “ 情報処理技術者の資質 ”、情報処理学会、第36回全国大会講演論文集、pp.2383-2384(1988.3) (共著)
- 16) “Automation of the Aptitude Test for Programmers”, Dokkyo Keizai, No.50, pp.329-341(1988.3)
- 17) “ 情報処理要員のための適性試験立体図形作成システム ”、情報処理学会、第36回全国大会講演論文集、pp.2385-2386(1988.3) (共著)
- 18) “ 情報処理要員の適性検査—採用試験支援システム— ”、情報処理学会、第36回全国大会講演論文集、pp.2387-2388(1988.3) (共著)
- 19) “ 適性検査立体図形作成支援システム ”、情報学研究、No.6, pp.47-56(1988.7)
- 20) “An Expert System for Recruiting the Information Processing Personnel”, Dokkyo Keizai, No.53, pp.43-57 (1989.7)
- 21) “Knowledge Engineering Management-Issue and Prospect”, Human System Management, Vol.10, No. 2(1991.4) (共著)
- 22) “ 外国語聞き取り強化のための CAI ”、情報科学研究、第 9 号、pp. (1991.7)
- 23) “ 情報処理技術の適性検査における難易度の指標 ”、獨協経済、第57号、pp.40-62(1991.10)
- 24) “CAI コースウェアの開発例と問題点 ”、情報科学研究、第10号、pp.(1992.7)
- 25) “ イリノイ大学における CAI システム ”、獨協経済、第60号、pp.167-190.(1993.10)

- 26) “情報処理教育と新学習指導要領”、獨協経済、第60号、pp.191-223(1993.10) (共著)
- 27) “情報処理技術者のモチベーションに関する国際比較”、中央情報教育研究所、(1994.3) (共著)
- 28) “To teach Japanese Tea Ceremony at the University of Illinois by using Mosaic hypermedia environment”, (共著)
- 29) “マルチメディア型コースウェア”、情報科学研究、第12号、pp. (1994.12)
- 30) “Development of a Courseware to Teach Japanese Art and Culture at the University of Illinois”, DOKKYO Keizai, No 61, pp.195-220(1995.3)
- 31) “ネットワークを使った米国での日本文化教育”、CIEC、PC Conference 95、pp.125-128(1995.6) (共著)
- 32) “Webを用いた茶道のコース開発”、計測自動制御学会、第11回ヒューマン・インタフェース・シンポジウム論文集、pp.127-139(1995.10) (共著)
- 33) “The Development of Multimedia Courseware of Japanese Culture via Internet”, ED-MEDIA 96, (1996.6) (共著)
- 34) “イリノイ大学におけるネットワーク型コースウェアの開発と問題点”、教育システム情報学会、研究報告、Vol.95、No 4、pp.7-21(1995.12) (共著)
- 35) “The Evaluation of Networked Courseware”, Dokkyo University Studies of Economics No 64, pp1-32,(1996) (共著)
- 36) “ネットワーク型コースウェアの開発とその評価”、平成8年度情報処理教育研究集会講演論文集、pp29-32(1996) (共著)
- 37) “コンピュータを用いた教育のための支援体制”、平成8年度情報処理教育研究集会講演論文集、pp352-355(1996) (共著)
- 38) “Visual Basic を用いたコース開発”、'96 PC Conference、pp102-108(1996)
- 39) “Visual Basic を用いたマルチメディア型コースウェア”、情報科学研究、第14号、pp77-85 (1996)
- 40) “ネットワークを用いたコースの開発例と問題点”、Council for Improvement of Education through Computers, 創刊準備号, pp56-61(1996).
- 41) “Evaluation of Networked Courseware”, Dokkyo University Studies of Economics, No.54, pp.65-96(1997.1) (共著)
- 42) “マルチメディア型コースウェアの開発—体育の授業におけるコンピュータの活用—”
- 43) “ネットワークの最先端技術の教育への利用、'97 PC Conference 予稿集、pp.29-32(1997.8)
- 44) “インターネットを用いた教育・研究のためのサポートシステム、'97 PC Conference 論文集、pp.95-98(1997.8) (共著)
- 45) “コンピュータを用いた教育のためのサポートシステム”、第11回私立大学情報教育協会大会、pp.80-81(1997)
- 46) “メディア利用による授業改善の研究 (00)—インターネット、プレゼンテーション・ツールを用いた授業—”、教育工学関連学協会連合第5回全国大会講演論文集、pp.243-246(1997.9)
- 47) “マルチメディアを用いたスポーツ教材の開発”、教育工学関連学協会連合第5回全国大会講演論文集、pp.689-690(1997.9) (共著)
- 48) “インターネットを利用した教育と支援システム”、電気関係学会東海支部連合大会講演論文集、pp43-44(1997.9) (共著)
- 49) “インターネットを用いた教育の評価”、第11回私立大学情報教育協会大会論文集、pp.144-145(1997)
- 50) “インターネットを用いた教育・研究のためのサポートシステム”、'97 PC Conference 論文集、pp.95-98(1997.8) (共著)
- 51) “マルチメディアを用いたインラインスケートコースウェア”、情報科学研究、第15号、pp.11-20(1997.9) (共著)

- 52) “インターネットを利用した教育と支援システム”、電気関係学会東海支部連合大会講演論文集、pp.43-44(1997.9)
- 53) “インターネットを利用した教育例と問題点”、情報科学研究、第15号、pp.21-30 (1997. 10)
- 54) “ネットワークの教育への利用と問題点”、獨協経済、第67号、pp.47-66 (1998.1)
- 55) “インターネットを用いた日本文化理解のための日米コラボレーションシステムの開発その1ー基本設計”、獨協経済、第68号、pp.93-108(1998.3) (共著)
- 56) “マルチメディア型コースウェアの開発と開発ツール”、私情協ジャーナル、Vol.6、No.4、pp.17-19(1998.3)
- 57) “Collaborative Learning System for Japanese Culture”, ED-MEDIA98, pp.(1998.6) (共著)
- 58) “日本文化理解のための日米コラボレーションシステムの開発”、'98 PC Conference 論文集、pp.10-13(1998.7)
- 59) “日本文化理解のためのコラボレーションシステム”、日本教育工学会第14回大会講演論文集、pp.527-528(1998.9) (共著)
- 60) “教材の電子メディア化と課題ー電子メディア化の現状と方向性”、第12回私立大学情報教育大会、pp.181-184(1998.9)
- 61) “メディア利用による大学の授業改善の研究ーネットワーク、プレゼンテーション・ツールを活用した授業”、メディア教育研究、01ー1998、pp.143-155 (1998.9)
- 62) “Images of Japan-Collaborative Learning System for Japanese and Japanese Culture”, Global Education on the Net, pp.530-531(1998.10)
- 63) “インターネットとマルチメディアを大学授業で活用するための教員研修”、日本教育工学会、第15回全国大会論文集、pp.201-202(1999.10)
- 64) “文科系大学におけるコンピュータ利用教育”、PC Conference、CIEC(2000.8)
- 65) “Web教材の教材作成のための教材支援ー開発と運用”、文部省、情報処理教育研究集会論文集、pp.616-619.(2000.12)
- 66) “マルチメディア対応の電子教材開発ー基本設計ー”、教育工学関連学協会連合講演論文集、pp.555-558(2000.10) (共著)
- 67) “電子教材作成のための教員支援”、教育工学関連学協会連合講演論文集、pp.33-34(2000.10)
- 68) “Web教材およびコミュニケーションシステムの開発と評価”、情報科学研究第18号、pp.37-46(2000.11)
- 69) “Development of Cross-Cultural Communication System and Web-based Japanese Education”, Learning Societies in the New Millennium: Creativity, Caring & Commitments, pp.741-744. (2000.11)
- 70) “電子教材のための支援インフラストラクチャー”、研究報告26号、メディア教育開発センター、pp.110-118(2001.3)
- 71) “高等教育におけるメディア活用事例と教員の教授能力開発ーV研修プログラムの事例集”、研究報告27号、メディア教育開発センター、pp.91-92、pp.1254-125.(2001.3)
- 72) “Analytic Studies of Bulletin Board for Cross-Cultural Communication”, ED-MEDIA 2001, pp.1392-1393 (2001.6) (共著)
- 73) “ゼミにおけるBBSの利用分析”、2001 PCカンファレンス論文集、CIEC、pp.130-131(2001.8)
- 74) “3教室合同授業システムによる授業とその評価”、平成13年度情報処理教育研究集会講演論文集、文部科学省、pp.15-18(2001.10)
- 75) “Construction of Web-based Japanese Listening Comprehension Program”, SchoolNet2001, pp.858-865 (2001.11)
- 76) “Web教材作成と教材利用インフラストラクチャー”、情報科学研究、第19号、pp.23-37(2001.11)
- 77) “日本語聴解Web教材の開発と利用”、日本教育工学会第17回大会講演論文集、pp.479-480(2001.11)
- 78) “3教室合同遠隔授業の評価”、情報処理学会シンポジウムシリーズ、Vol.2002、No.12、pp.7-14(2002.8)



- 79) “ゼミにおけるインターネットの利用と分析”、第27回全国大会講演論文集、教育システム情報学会、pp.329-330(2002.8)
- 80) “BBS とホームページを用いた日米意見交換”、2002 PC カンファレンス論文集、CIEC pp.58-61(2002.8)
- 81) “文科系大学における講義支援システムとその運用”、日本教育工学会、第18回大会講演論文集、pp.685-686 (2002.11)
- 82) “文科系ゼミにおけるインターネットの利用環境と利用方法、平成14年度情報処理教育研究集会講演論文集、文部科学省、pp.57-60(2002.10)
- 83) “ゼミにおけるインターネットの利用とその解析”、情報科学研究、第 20 号、pp.41-48(2002.10)
- 84) “Construction of Web -based Japanese Listening Program and the results of its Preliminary Experimental Results”, ED-MEDIA 2002. AACE, pp.1934-1939(2002.6)
- 85) “Collaborative Knowledge Building through BBS for Better Cross-Cultural Communication”, IEEE. IEEE Learning Technology Task, pp.404-408(2002.12) (共著)
- 86) “Web-based Japanese Listening Program: Development, Implementation and Results. Information and Systems in Education”. Vol.1. No. 1. pp.90-97(2003.3)
- 87) “獨協大学における情報環境の現状と今後の情報教育”、情報処理学会、情報処理学会シンポジウム論文集、pp.65-70(2003.8)
- 88) “On the Use of a BBS for Better Cross-cultural Communication”, AACE, ED-MEDIA 2003, pp.1611-1612(2003.6) (共著)
- 89) “文科系大学における情報教育の現状”、CIEC、PC Conference 2003 論文集、pp.301-304(2003.8)
- 90) “デジタル教材開発と支援組織”、教育システム情報学会、pp.55-56(2003.8)
- 91) “文科系大学における e-learning とサポート体制”、文部科学省、平成15年度情報処理教育研究集会講演論文集、pp.738-741(2003.11)
- 92) “インターネットを用いた日米意見交換の評価”、教育工学会、Pp.847-848(2003.10)
- 93) “Development of a Web-based Listening Program in Search of Better Ways of Enhancing Japanese Listening Comprehension Skills”, AACE, ICCE 2003, pp.1208-1215(2003.12) (共著)
- 94) “BBS とホームページを用いた日米意見交換”、情報科学研究、第21号、pp.63-72(2003.12)
- 95) “テレビ会議システムを用いた合同ゼミ”、PC Conference、CIEC、神戸大学、2004 PC Conference 論文集、pp.314-317(2004.8)
- 96) “文科系大学における情報教育の現状と問題点”、教育システム情報学会、第29回全国大会講演論文集、pp.145-146(2004.8)
- 97) “テレビ会議システムを用いた合同授業”、教育工学会、東京工業大学、第20回全国大会講演論文集、pp.803-804(2004.11)
- 98) “遠隔ゼミの長期実践と参加者の意識変化についての考察”、教育工学会、東京工業大学、第20回全国大会講演論文集、pp.893-894(2004.11) (共著)
- 99) “コンピュータ入門受講生の入学以前の学習状況と今後の教育”、平成16年度情報処理教育研究集会、情報教育研究集会論文集、pp.798-801(2004.11)
- 100) “テレビ会議システムを用いた合同ゼミ”、情報科学研究、第22号、pp.25-32(2004.12)
- 101) “Combining BBS with Internet Conference for Better Ways of Cross-cultural Communication”, AACE, ED-MEDIA 2004, pp.1611-1612(2004.6) (共著)
- 102) Combining TV Conference with BBS for Better Ways of Cross-cultural Communication, AACE, E-Learn 2004, pp.740-745(2004.11) (共著)
- 103) “新入生の大学以前の情報教育に関する調査と新一般常用処理教育”、情報処理学会、情報処理学会研究報告、2005-CE-80、pp.49-56(2005.6)

- 104) “遠隔授業における携帯電話の利用システムとその結果”、情報処理学会、情報教育シンポジウム論文集、IPSJ Symposium Series Vol. 2005, No.8, pp.173-178(2005.8)
- 105) “A Cross-Cultural Exchange via BBS and Internet Video Conferencing: A Project Overview”, AACE, ED-MEDIA 2005, pp.2449-2453(2005.6) (共著)
- 106) “遠隔授業と携帯電話の利用”、CIEC、2005 PC Conference 論文集、pp.218-221(2005.8)
- 107) “講義における携帯電話の利用とその結果”、教育工学会、第21回全国大会講演論文集、pp.803-804(2005.10)
- 108) “コンピュータ入門受講生の入学以前の学習状況と今後の教育”、平成17年度情報処理教育研究集会、情報教育研究集会論文集、pp.798-801(2005.11)
- 109) “On the Use of Cellular Phone in a Large Class for Activating Students’ Participation”, AACE, E-Learn 2005, pp.943-949(2005.11) (共著)
- 110) “遠隔授業における携帯電話の有効利用”、情報科学研究、第23号、pp.1-10(2005.12) (共著)
- 111) “文科系大学における学生の高校以前の情報教育の現状”、PC Conference、CIEC、2006 PC Conference 論文集、pp.275-278(2006.8)
- 112) “大教室における携帯電話の利用”、教育システム情報学会、第31回全国大会講演論文集、pp.199-200(2006.8)
- 113) “新入生が入学以前に受けた一般情報処理教育の調査と結果”、平成18年度情報教育研究集会、情報教育研究集会論文集、pp.283-288(2006.11)
- 114) “新入生が受けた入学以前の情報教育の推移と今後の計画”、情報処理学会、情報教育シンポジウム論文集、IPSJ Symposium Series Vol. 2006, No.9, pp.283-288(2006.8)
- 115) “大学における e-ラーニングの現状と日米比較”、情報科学研究、第24号、pp.73-84(2006.12)
- 116) “新入生が入学以前に受けた一般情報処理教育の調査と結果”、第一学習社、エデュカーレ、情報、No.16、pp.2-5(2007.2)
- 117) “To Optimize Mutual Communication between the Students and the Instructor in a Large Class Setting – Report on Using Cellular Phone Web System”, AACE, ED-MEDIA 2006, pp.2383-2389(2006.6) (共著)
- 118) “Effective Use of Cellular Phones in Large Class Settings for Activating Students’ Participation”, AACE, E-Learn 2006, pp.986-993(2006.10) (共著)
- 119) “Using the Internet for Cultural Understanding”, AACE, ED-MEDIA 2007, pp.2223-2228(2007.6) (共著)
- 120) “大学における ICT 支援—獨協大学の取り組みから—”、情報処理学会、研究報告、2007-CE-90、pp.55-62(2007.7)
- 121) “『一般情報』プレースメントテストのための調査”、情報処理学会、情報教育シンポジウム論文集、IPSJ Symposium Series Vol. 2007, No.6, pp.39-44(2007.8)
- 122) “イリノイ大学における ICT 支援”、情報科学研究、第25号、pp.1-10(2008.2)
- 123) “ICT を活用した FD の取組事例と全学的な教員サポート体制—獨協大学（文科系大学）の取組から—”、メディア教育開発センター、NIME 研究報告、第39号、pp.54-75(2008.2)
- 124) “オーストラリアにおける教育力向上 (FD) の動向と実態”、メディア教育開発センター、ICT 活用による教員の教育力向上の取組 (FD) に関する調査報告書、pp.134-143(2008.3)
- 125) “Expanding Students’ Participation on the Use of Cellular Phones in Large Class Settings: A Look at High Speed Download Packet Access”, AACE, ED-MEDIA 2007, pp.383-2389(2007.6) (共著)
- 126) “大学における ICT 支援—獨協大学の取り組みから—”、情報処理学会、研究報告集、pp.55-62(2007.7) (共著)
- 127) “能力別クラスによる情報処理教育の成果と問題点”、PC Conference、CIEC、2007 PC Conference 論文集、pp.375-378(2007.8)



- 128) “コンピュータ入門のためのプレースメントテストの施行—高等学校における『情報』の成果”、教育システム情報学会、第32回全国大会講演論文集、pp.199-200(2007.9)
- 129) “「一般情報」のためのプレテストとポストテストの試行結果”、平成19年度情報教育研究集会、情報教育研究集会論文集、pp.44-47(2007.11)
- 130) “Reports on the Uses of Cellular Phones in Large Class Settings for Effective Instruction”, AACE, E-Learn 2007, pp.1155-1162(2007.10) (共著)
- 131) “新しいネットワーク空間—その課題と未来”、CIEC、Computer & Education、Vol.23、pp.61-67 (2007.12)
- “Deploying Mobile Phones for Faculty Development”, AACE, ED-MEDIA 2008, pp.3210-3219(2008.6.) (共著)
- 132) “大学入学時一般情報能力の年次比較”、PC Conference、CIEC、2008 PC Conference 論文集、pp.369-372(2008.8)
- 133) “文科系大学における入学時の一般情報能力の年次比較と今後の一般情報教育”、情報処理学会、情報教育シンポジウム論文集、IPSJ Symposium Series Vol.20、pp.(2008.8)
- 134) “一般情報教育の現状と今後の課題”、平成20年度情報教育研究集会、情報教育研究集会論文集、pp.44-47(2008.12)
- 135) “日本文化教育のための日米コラボレーションシステムの設計”、教育システム情報学会第23回全国大会講演論文集、(共著)
- 136) “大学における専門情報カリキュラムと一般情報教育カリキュラム”、情報科学研究、第26号、pp.55-68(2009.1)
- 137) “大学入学時におけるパソコンとケータイの利用調査結果”、PC Conference、CIEC、2009 PC Conference 論文集、pp.369-372(2009.8)
- 138) “高等学校における「情報」と新入生の情報能力”、情報処理学会、情報教育シンポジウム論文集、IPSJ Symposium Series Vol. 2009, No.6、pp.27-34(2009.8)
- 139) “Development of Dynamic Outdoor Education Program- Using Digital Microscope and Wireless LAN”, IEEE, ICALT 2009, pp.209-310(2009.6) (共著)
- 140) “獨協大学経済学部における一般情報教育—高等学校「情報」と社会の橋渡し—、私立大学情報教育協会、平成21年度教育改革戦略大会、pp.94-99(2009.9)
- 141) “携帯電話と一般情報教育”、教育工学会全国大会論文集、pp.44-47(2009.9)
- 142) “Development of a Dynamic Outdoor Education Program in Response to Students' Needs and Interests”, AACE, Global Learn 2010, pp.109-114,(2010.6) (共著) .
- 143) “LMS とマルチメディアコンテンツ”、情報科学研究、第26号、pp37-48(2010.1)
- 144) “文科系大学における一般情報教育”、情報処理学会、情報教育シンポジウム論文集、IPSJ Symposium Series Vol. 2010, No. 6、pp69 -76(2010.8)
- 145) “情報プレースメントテストの分析”、PC Conference、CIEC、2010 PC Conference 論文集、pp.369-372 (2010.8)
- 146) “獨協大学における OS の変遷と今後”、情報科学研究、第28号、pp.41-52(2011.1)
- 147) “経済学研究科20周年記念シンポジウム開催にあたって”、獨協経済、第90号、pp.86-92(2011.3)
- 148) “Application of a Digital Microscope to General Education to Activate Students' Multiple Intelligences”, AACE, ED-MEDIA 2011 , pp.201-204(2011.6) (共著)
- 149) “デジタル教科書に関する基礎調査”、PC Conference、CIEC、2011 PC Conference 論文集、pp.360-363(2011.8)
- 150) “外国人学生のための日本語学習システムの開発と問題点 — iPhone と iPad 用のシステム開発 — ”、2011 PC Conference 論文集、pp.190-193(2011.8) (共著)

- 151) “大学生の情報環境と基礎情報能力の変化”、情報学研究、創刊号、pp.120-128(2012.2)
- 152) “大学生の情報環境と基礎情報能力調査－2003年から2012年まで－”、情報処理学会、情報教育シンポジウム論文集、IPSJ Symposium Series Vol. 2012, No4, pp.29-34(2012.8)
- 153) “文科系大学生のデジタル端末に対する調査分析－2011年と2012年の調査結果より－”、PC Conference、CIEC、2012 PC Conference 論文集、pp.229-232(2011.8)
- 154) “多数対多数遠隔教育の実験と評価、2012 PC Conference 論文集、pp.321-324(2011.8) (共著)
- 155) “大学における ICT 支援－獨協大学の取り組みから－”、情報処理学会、情報処理学会研究報告、Vol.2012-CE-115、No1、pp.1-8(2012.7)
- 156) “漢字 OCR システムでの認識率の向上方法と考察”、情報学研究、創刊号、pp.60-64(2012.2) (共著)
- 157) “教育用システムの利用比較研究－教員側と学生側－”、情報学研究、第2号、pp.55-64(2013.2)  
大学生のモバイル環境とクラウドサービス利用、情報処理学会、情報教育シンポジウム論文集、IPSJ Symposium Series Vol. 2013, No2, pp.47-54(2013.8)
- 158) “情報基礎教育におけるクラウドサービスの利用とその結果”－、PC Conference、CIEC、東京大学、2013 PC Conference 論文集、pp.333-336(2013.8) (共著)
- 159) “クラウド型学習システムの比較研究”、情報学研究、第3号、pp.5-13(2013.1)
- 160) “In Search of a Usability of Kinect in the Training of Traditional Japanese “KATA”—Stylized Gestures and Movements”, IEEE, pp.176-179(2013.9) (共著)
- 161) “初等教育における情報教育の国際比較－中国と日本－、情報学研究、第3号、pp.136-142(2014.1) (共著)
- 162) “クラウドコンテンツの利用と学生の反応－日経パソコン Edu－”、情報処理学会、情報教育シンポジウム論文集、IPSJ Symposium Series Vol. 2014, No2, pp.13-20(2014.8)
- 163) “大学における一般情報教育の現状と今後の動向－情報処理学会一般情報教育委員会調査を基に－”、情報学研究、第4号、pp.27-38(2015.1)
- 164) “大学における情報教育の国際比較－日本、中国、韓国、ベトナム－”、情報学研究、第4号、pp.140-147(2015.1) (共著)
- 165) “センサーを利用した教育とその可能性”、情報学研究、第4号、pp.132-139(2015.1) (共著)
- 166) “クラウド教材を用いた一般情報教育の結果と考察－、PC Conference、CIEC、札幌学院大学、2014 PC Conference 論文集、pp.106-109(2014.8) (共著)
- 167) “一般情報教育はどこにゆくのか”、情報処理学会、情報処理、Vol.55、No6, pp.597(2014.6)
- 168) “クラウドコンテンツの利用と問題点－授業で半年間利用した結果”、情報学研究、第5号、pp.85-93(2016.2)
- 169) “情報学分野の参照基準－情報処理学会一般情報教育委員会調査を基に－”、情報学研究、第5号、pp.99-104(2016.2)
- 170) “外部コンテンツの授業内利用実績と今後の課題”－、PC Conference、CIEC、2016 PC Conference 論文集、pp.267-270(2015.8)
- 171) “携帯端末用リアルタイム文字認識エンジンの開発－次世代の文字認識エンジン”、情報学研究、第5号、pp.13-19(2016.2) (共著)
- 172) “大学の授業におけるコンピュータ・アンプラグドの実験－プログラミングの授業での試み”、情報学研究、第5号、pp.110-114(2016.2) (共著)
- 173) “外部コンテンツの授業内利用実績と今後の課題”－、PC Conference、CIEC、2015 PC Conference 論文集、pp.267-270(2015.8) (共著)
- 175) “大学の情報環境に合わせた商用コンテンツの利用と結果”、CIEC、PC カンファレンス 2016論文集、pp.299-302(2016.8) (共著)
- 176) “Computer Science Curricula 2013 と今後の情報学教育について”、情報学研究第6号、pp.75-

79(2017.2)

177) “小学校におけるプログラミング教育の導入と問題点”、情報学研究第6号、pp.89-92(2017.2)

## 講演

「メディアによる大学の授業改善の研究」、放送開発センター (1996.9)

「ネットワークの教育への応用」、第17回研究会、CIEC(1999.11)

「インターネット教材の作成と教材作成支援」、外国語教育メディア学会第41回全国研究大会、(2001.8)

「メディアテクノロジー教材の開発と実用」、早稲田大学人間科学部 (2004.12)

「遠隔授業における携帯電話利用の利点と問題点」、東京工業大学大学院 (2005.3)

「新しいネットワーク空間—その課題と未来」、CIEC、Computer & Education、Vol.23,pp61-67

「獨協大学における一般情報教育—高等学校「情報」と社会との橋渡し—」、私立大学情報教育協会、平成21年度教育改革 IT 戦略大会、pp.94-99(2009.9)

「2008年度以降の一般情報教育の在り方を問う」、情報処理学会第71回全国大会講演論文集、pp.21-23 (2009.3)

「ICT を活用した FD の取組事例と全学的な教員サポート体制について」、立正大学平成20年度前期 FD 推進講演会：学長、副学長、学部長、研究科委員、FD 委員会、教務委員会、自己点検委員会、政策広報課、総務課、学務課、学部事務室、情報センター対象 2008.6

情報教育研究会シンポジウム：これからの一般情報教育の在り方を問う、情報教育研究会 (2009.11)

「アメリカにおける情報教育と日本の現状」、大分大学、大分大学情報教育シンポジウム (2009.11)

「PC スキル教育からの脱却—これからの一般情報教育の在り方とは—」、情報処理学会第73回全国大会、情報教育関連合同シンポジウム (2011.3)

北海道 PCC、第10回研究会、札幌学院大学 (2012.11)

## 学会報告

立田ルミ：ED－MEDIA96、獨協経済、第63号、pp.119-136(1996)

## 総合報告

“コンピュータを用いた教育・研究のためのインフラストラクチャー”、情報科学研究、第15号、pp.81-100 (1997.9) (共著)

“経済学研究科20周年記念シンポジウム開催にあたって”、獨協経済、pp.86.92(2011.3)

## 巻頭言

巻頭言、情報学研究、創刊号、pp3-4

巻頭言、『獨協経済研究科20周年記念シンポジウム開催』、獨協経済研究年報、第20号、pp.1-2 (2011.8)

巻頭言、情報学研究所オープニング講演会開催にあたって、pp.3-12

巻頭言、情報学研究（設立趣旨）・所所長メッセージ、獨協大学学報、pp.86-87

巻頭言、情報学研究、第2号、pp.3-4

巻頭言、獨協経済研究年報、pp.1-2

巻頭言、情報学研究所講演会開催にあたって、Informatics2、pp.3-12

巻頭言、情報学研究所第1回海外調査研究実施報告中国訪問、Informatics3、pp.30-31

巻頭言、Informatics3、pp2.-3

## その他

立田ルミ他 2 名：第 1 回－第 3 回 e-L フォーラム、e-language、Vol.1-3、[http://www.hi-ho.ne.jp/unipo/\\_e-language/](http://www.hi-ho.ne.jp/unipo/_e-language/)、(2001, 8－11) (e-mail による対談を Web 雑誌に掲載)

シンポジウムコーディネータ&司会

## 報告書

「インターネットを用いた日本文化理解のための日米コラボレーションシステムの開発」、課題番号 09680226、165ページ、1999年 3 月

「日本文化と日本語理解のためのコミュニケーションシステムの開発に関する研究」、課題番号 11682201、126ページ、2002年 3 月

「日本文化と日本語教育のためのコラボレーションシステムの研究開発」、課題番号 16500600、124ページ

「日本文化と日本語理解のためのコミュニケーション強化マルチメディア教材の研究開発」、課題番号 14580230、178ページ、2004年 3 月

「日本文化および日本語と英語教育のためのコラボレーションシステムの研究開発」、課題番号 18500725、220ページ、課題番号 18500725、2008年 3 月

## 研究費獲得

### (1) 「情報処理技術者に対する適性検査に関する調査研究」

1986年 4 月～1990年 3 月（5 年間）、日本情報処理開発協会

研究費：全体で2500万円、研究分担者（4 名の共同研究）

### (2) 「ファジィ情報処理とシステムの高度知能化に関する研究」

1989年 4 月～1991年 3 月

代表者：京都大学工学部教授 岩井 壮介

研究費：全体で 1800万円、研究分担者

### (3) 「ファジィ制御、ファジィコミュニケーション、ファジィ物体認識に関するニーズ調査研究」

1989年10月～1991年 3 月（2.5年間）、国際ファジィ工学研究所

代表者：青山学院大学教授 石川 昭

研究費：2000万円、研究分担者

### (4) 「情報処理技術者育成のモチベーションに関する国際比較調査研究」

1993年 4 月～1994年 3 月（1 年間）、日本情報処理開発協会

代表者：東京理科大学教授 三重野 博司

研究費：2000万円、研究分担者

### (5) 「CAI システムのプロトタイプ構築」

1993年 4 月 1 日～1994年 3 月31日

獨協大学特別研究費

研究費：200万円、研究代表者

### (6) 「CAI システムの調査研究」

1992年 7 月～1992年 9 月（3 ヶ月間）、イリノイ大学

研究費：200万円、個人研究研究代表者＝>個人研究

### (7) 「Computer Use in Education」

1994年 4 月～1995年 9 月（1.5 年間）、イリノイ大学

研究費：300万円、個人研究

### (8) 「日本語と日本文化理解のためのコラボレーションシステムの開発」

研究代表者：中西家栄子、研究分担者

1998年4月～2000年3月

研究費：300万円

(9) 「コンピュータ利用による講義方法の研究」

研究代表者 本田勝教授

1999年4月1日～2001年3月31日

獨協大学特別研究費

研究費：200万円、研究分担者

**科研費（研究代表者）**

(1) 平成9年度～平成10年度文部科学省科学研究 研究代表者

1997年4月～1999年3月

「インターネットを用いた日本文化理解のための日米コラボレーションシステムの開発」、課題番号 09680226、平成9年度～平成10年度科学研究費補助金基盤研究（C）3800千円

(2) 平成12年度～平成13年度文部科学省科学研究 研究代表者

2001年4月～2002年3月

「日本文化と日本語理解のためのコミュニケーションシステムの開発に関する研究」、課題番号 11682201、平成12年度～平成13年度科学研究費補助金基盤研究（C）3900千円

(3) 平成14年度～平成15年度文部科学省科学研究 研究代表者

2002年4月～2004年3月

「日本文化と日本語理解のためのコミュニケーション強化マルチメディア教材の研究開発」、課題番号 14580230、平成14年度～平成15年度科学研究費補助金基盤研究（C）3900千円

(4) 平成16年度～平成17年度文部科学省科学研究 研究代表者

2004年4月～2006年3月

「日本文化と日本語教育のためのコラボレーションシステムの研究開発」、課題番号 16500600、平成16年度～平成17年度科学研究費補助金基盤研究（C）3900千円

(5) 平成18年度～平成19年度文部科学省科学研究 研究代表者

2006年4月～2008年3月

「日本文化および日本語と英語教育のためのコラボレーションシステムの研究開発」、平成18年度～平成19年度科学研究費補助金、平成14年度～平成15年度科学研究費補助金基盤研究 © 課題番号 18500725 3800千円

(6) 平成25年度～平成27年度文部省科学研究 研究協力者

代表：東京国際大学教授 河村一樹

「大学における一般情報教育モデルの構築に関する研究」、課題番号 25350210、平成25年度～平成27年度文部省科学研究補助金（C）3800千円

(7) 平成28年度～平成30年度文部科学省科学研究

「大学における一般情報教育のブレースメントテスト構築」

2016年4月～2019年3月

科研費共同研究者：“大学における一般情報教育のブレースメントテスト構築に関する研究”、課題番号 25350210、平成28年～平成30年（3年間）3800千円